



岡山大学理学部 同窓会会報

Faculty of Science Okayama University Alumni Association



岡山大学理学部同窓会役員名簿

平成28年4月1日現在

役員	氏名	所属等
会長	本水昌二	名誉教授
副会長	吉野雄二	理学部長(教授)
理事	橋本光靖	数学科長(教授)
理事	池畑秀一	名誉教授
理事	作田誠	物理学科長(教授)
理事	味野道信	物理学科准教授
理事	西原康師	化学科長(教授)
理事	佐竹恭介	名誉教授
理事	川本平山	全学同窓会理事(化学科)
理事	竹内栄	生物学科長(教授)
理事	富永晃	生物学科准教授
理事	野沢徹	地球科学科長(教授)
理事	横谷尚睦	附属界面科学研究施設長
監事	野原実	副学部長(教授)
監事	富岡憲治	副学部長(教授)

平成27年度 会計報告

収入		支出	
摘要	金額	摘要	金額
1 前年度繰越	395,395	1 事業費(内訳)	296,776
		(1) 同窓会(ホームカミングデイ)	64,640
		貸切バス代	62,640
		お茶代	2,000
		(2) 同窓会報作成経費	181,764
		同送料	45,372
		(3) 就職セミナー講演謝金	5,000
2 会費	1,225,080	2 事務費(内訳)	3,444
一般学生 625,000		(1) 切手	3,444
@5,000 × 125名			
卒業生 600,080		3 繰越金	1,429,636
147名		預金	1,344,907
		現金	84,729
3 寄付金	10,000	合 計	1,729,856
4 預金利息	151		
5 参加費	11,000		
6 現金受入	82,185		
7 雑収入	6,045		
合 計	1,729,856	合 計	1,729,856

■編集後記 (Alumni報告 Alumni行事に進んで参加しよう!)

平成25年に全学同窓会を改組して設立された岡山大学 Alumni (全学同窓会) (以下 Alumni と略す) は、着実にその組織の整備と事業の展開を進めており、国内の拠点として東京支部、愛媛県支部、広島支部を設立した。また海外においては国際同窓会の活動拠点として世界各地に50の支部・拠点を設立し、母校との緊密な連携が図られている。

毎年7月末に開催されるAlumni 東京支部総会および交流会が、今年は7月30日(土)に学士会館を会場として開催され、小長啓一会長、森田潔学長の出席のもと8学部から114名の同窓生が集い、学部・学科・世代の垣根を超えて交流を深めた。そして閉会には参加者全員で岡山大学学生歌を斉唱し再会を誓った。交流会終了後には同じ会場でテーブルを再配置して各学部の同窓会が開催された。理学部同窓生の集いには東京・関東在住の同窓生8名が参加して学生時代の情景を熱く語っていたのが印象的であった。

岡山大学は毎年開学記念日を中心に「岡山大学ホームカミングデイ」と「Alumni 総会」を開催するとともに、東京支部、愛媛県支部、広島支部でもそれぞれ同窓生の集いを企画・実施している。Alumni 関連情報は岡山大学ホームページのトップページおよび理学部同窓会のページに記載されている。同窓生の皆さんは絶えず岡山大学のホームページをチェックしていただき、Alumni の各種行事にクラス、ゼミ、サークルの友人を誘い合せて参加していただければ10万人余の同窓生に輪は大きく拡がり、絆はさらに深化する。皆さんの参加を楽しみにしています。

岡山大学 Alumni(全学同窓会) 理事 川本平山

お問い合わせ先

岡山大学理学部同窓会事務局

〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中三丁目1番1号 岡山大学理学部内
TEL:086-251-7764 FAX:086-251-7777
E-mail:alumni-sci@okayama-u.ac.jp
<http://www.science.okayama-u.ac.jp/alumni-sci/>



OKAYAMA UNIVERSITY

【会則】平成24年3月5日 制定

(名称)
第1条 本会は、岡山大学理学部同窓会(以下、「本会」という。)と称する。

(目的)
第2条 本会は、会員相互の親睦・情報交換、並びに資質の向上を図り、併せて岡山大学理学部及び自然科学研究科の発展を目的とする。

(事業)
第3条 本会は、目的を達成するために次の活動を行う。
一 総会の開催
二 会報の発行
三 会員名簿の管理
四 その他、本会の目的達成に必要な事項

(構成)
第4条 本会は、所在地を岡山市北区津島中三丁目1-1岡山大学理学部内に置く。
2 本会は、事務局を設け、事務職員を置くことができる。
3 本会は、必要な学科並びに地域に支部を設置することができる。支部には代表者を置く。

(学科同窓会)
第5条 本会は、学科及びそれに関連する大学院卒業生で別に組織する同窓会(以下「学科同窓会」という。)と連携協力を得て、本会の事業を行う。

(会員)
第6条 本会は、次の項に掲げる会員をもって構成する。
一 正会員
岡山大学理学部及びそれに関連する大学院の卒業生・修了生
二 学生会員
岡山大学理学部及びそれに関連する大学院の在学学生
学生会員は、卒業することにより正会員となる。
三 特別会員
岡山大学理学部及びそれに関連する大学院の教員及び技術職員並びに事務(室)長として在職した、又は在職する者
その他、理事会において入会を認めた者
2 本会の会員は、氏名・住所・電話番号・勤務先・メールアドレスなどの変更が生じたときは、本会事務局に届け出るものとする。

(学科同窓会の会員)
第6条の2 学科同窓会の会員は、本会の正会員に準じて取り扱うこととし、その取扱いは別に定める。

(役員)
第7条 本会に、次の役員をおく。
一 会長 1名
二 副会長 1名
三 理事 若干名
四 監事 2名
第8条 役員の仕事は次のとおり定める。
一 会長は、会務を総括する。
二 副会長は、会長を補佐し、事務局を統括する。
三 理事は、会長に協力し、会務を執行する。
四 理事は、各学科会員を代表し、本会と各学科会員との相互連絡にあたる。
五 理事は、本会の目的達成に必要な役務(総務・会計・広報・名簿管理等)を分担する。
六 監事は、会計及び会務を監査する。

第9条 役員の出選方法は次のとおり定める。
一 会長は、会員の中から推薦するものとし、理事会で選出する。
二 副会長は、岡山大学理学部長をもってあてるとする。
三 理事は、学科毎に学科長を含めて2名程度とし、理事会で選出する。
四 監事は、理事会で選出する。
五 会長、副会長、理事、監事の任期は2年とし、再任を妨げない。

(会議)
第10条 会議は、総会、理事会及び役員会とする。
第11条 総会は、本会の重要事項について審議が必要な場合において、理事会の議を経て、会長がこれを召集する。

第12条 理事会は、会長、副会長、理事及び監事を以て組織し、会長がこれを召集する。
理事会の議長は会長または副会長がたる。
3 理事会は、年1回以上開催し、次の各号に掲げる事項を審議する。
一 会則及び施行細則の改正に関する事項。
二 会務及び業務報告に関する事項。
三 決算承認及び予算の議決に関する事項。
四 その他、役員会において必要と認めた事項。
4 理事会は役員会の過半数の出席をもって成立し、議事は、出席者の過半数をもって決する。
第13条 役員会は、会長・副会長で構成する。
2 役員会は、本会の会務の企画又は執行の必要に応じて随時開催し、協議の結果は理事会に提案並びに報告をする。

(会計)
第14条 本会の運営に要する経費は、会費・寄付金・その他の収入をもってあてる。
第15条 本会の会費を次のとおり定める。
一 正会員は、入会金(終身会費)5,000円を納付するものとする。ただし、既に学生会員である者の入会金は不要とする。
二 学生会員は、入会金(終身会費)5,000円を入学時に納付するものとする。
三 既に学科同窓会の会員であって本会に入会する者は、その入会金を免除する。
四 会費の納付方法については、別に定める。

第16条 本会の運営に要する経費にあてるため、会員及び学科同窓会等から寄付金を受領することができる。
第17条 会計担当理事は毎年、理事会或いは会報で本会の会計を報告する。
第18条 監事は、毎年本会の会計を監査する。
第19条 会計担当理事は、正会員の要求があれば会計帳簿を随時公開しなければならない。
第20条 本会の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(雑則)
第21条 この会則に定めるほか、本会に関して必要な事項は、理事会の議を経て別に定めることができる。
2 理事会は、会則等重要な規定の改正を会報により報告するものとする。

(附則)
1 この会則は、平成24年3月5日から施行する。
2 この会則は、平成24年3月卒業生から適用する。
3 会計管理は、事務局が行い代表者は事務局長とする。

いま、岡山大理学部がホットで、おもしろい!

同窓会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。理学部同窓会は発足5年目を迎え、会員も3000名に近づき、会員同士の交流も深まっています。10月22日のホームカミングデーには、理学部同窓会を開催致します。

本年4月に異分野基礎科学研究所の新設がかない、物理学から基礎生命科学分野、これらを融合した新たな学問分野の創出を目指しています。量子宇宙、光合成・構造生物学、超伝導・機能材料の三つの研究コアがあり、所長はじめ理学部教員が中心的メンバーとして多数参画しています。本研究所及び理学部では、人工光合成の実現と太陽光による水分解/水素燃料製造、ニュートリノ物理学、次世代エレクトロニクス用新機能材料開発など世界トップレベルの研究で、人類社会に大きな貢献が期待される研究が進んでいます。このほかにもホットな話題に尽きない母校・理学部を訪ね、研究・教育に邁進の教員・学生と夢の実現を共有いただければ幸いです。

理学部に限らず本学は、地域に開かれた大学、地域との連携強化を進めています。研究分野においては、学外の方々には先端設備・機器を開放しています。様々な分野でご活躍の同窓生の方々、ぜひ母校の設備・機器を活用し、あるいは現在理学部で進められている先端的、かつ未来に夢のある研究に接していただくことで、新たなファイトが湧き、大きなフレッシュ効果が期待でき、ひいては人生や仕事にプラスとなれば幸いと存じます。

最後に、理学部同窓会並びに岡山大学Alumniの発展に今後とも一層のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。挨拶に代えさせていただきます。



岡山大学理学部同窓会 会長
(昭和43年大学院修士課程修了)

本水 昌二

同窓会に寄せて

岡山大学理学部同窓会は2012年3月に設立され、皆様方のご協力によりその機能も順次充実してまいりました。理学部は、1949年の創設より発展を続け、現在では5学科を擁し、入学定員は140名、第三年次編入生を含めると収容定員600名の学部で成長してきました。附属施設として臨海実験所、界面科学研究施設が設置されています。また2016年4月には理学部の教員が中心となって異分野基礎科学研究所が発足しました。理学部からは、中心となる研究者の多数が研究所に移籍しましたが、理学部における教育については研究所所属の教員にも兼任をしてもらい、教育面での支障がないようにしています。

2011年には、理学部の先導的教育プログラムが文部科学省の理数学生育成支援事業に採択され、フロンティアサイエンティストコースが設置され現在に至っています。また、臨海実験所は全国の大学の教育関係共同利用拠点に認定されています。

世の中のグローバル化等の要請から大学でも多くの改革が実施されています。岡山大学では2016年度より、今までの90分授業・セメスター制から60分授業・4学期制へ移行されました。それに応じて理学部でもカリキュラムの再編が順次行われています。しかし、このような変革の中にあっても、理学部が科学の基礎研究と教育の中心であるという自負を持って教員一同励んでいく姿勢は今後も変わりありません。

今日の理学部の発展は、岡山大学理学部や大学院において研究を積み上げてこられた卒業生の皆様のご努力や実績によるものと感謝いたしております。理学部卒業生の皆様が本同窓会での交流や情報交換によって一層の親睦が深められ、皆様と同窓会が益々発展されることを心よりお祈りいたします。それと同時に、今後とも理学部に対して温かいご支援・ご助言を賜りますようお願い申し上げます。



岡山大学理学部長
吉野 雄二

▼活動報告

2016.10.22	理学部同窓会を開催	2013.10.19	理学部同窓会を開催
2016.9.7	理事会開催	2013.9.4	理事会開催
2015.10.17	理学部同窓会を開催	2013.3.6	理事会開催
2015.9.2	理事会開催	2012.10.20	設立記念総会並びに懇親会開催
2014.11.20	理事会開催	2012.7.4	理事会開催
2014.10.18	理学部同窓会を開催	2012.5.25	ホームページを公開
2014.8.21	理事会開催	2012.3.5	岡山大学理学部同窓会設立





各学科近況報告

数学科 Department of Mathematics



数学科では、昨年10月に楠岡誠一郎准教授が東北大学大学院理学研究科から着任いたしました。主な研究分野は確率論、確率解析、確率微分方程式です。そして、今年の2月末日をもって山田裕史教授が退職され、熊本大学大学院自然科学研究科に転出をされました。今年の4月には山田教授の後任として石川雅雄教授が着任されました。主な研究分野は表現論、代数的組合せ論、数え上げ組合せ論です。

この4月には岡山大学に異分野基礎科学研究所が設立されました。それとともに、谷口雅治教授と楠岡誠一郎准教授が異分野基礎科学研究所に異動しましたが、引き続き理学部数学科での教育をなさっております。

数学科の教員はさまざまな研究活動をしていますが、研究集会の開催もそのひとつになります。この1年で、数学科教員が世話役をする研究集会がいくつ開催されています。昨年11月には吉野雄二教授、橋本ほかにより、「第37回可換環論シンポジウム」が倉敷市で開催されました。昨年12月には河備浩司教授、塩沢裕一准教授（大学院自然科学研究科、環境理工学部）、楠岡誠一郎准教授ほかにより、「2015年度確率論シンポジウム」が岡山大学で開催されました。また、今年8月には「第63回幾何学シンポジウム」が清原一吉教授、藤森祥一准教授ほかにより岡山大学で開催されました。いずれもそれぞれの分野で年に1度開かれる国内最大の研究集会で、盛会でした。2018年には岡山大学で日本数学会の秋季総合分科会をお引き受けしており、準備が始まっております。



数学科長 橋本光靖

物理学科 Department of Physics



今年度の物理学科への学部新入生（1年生）は35人、3年次編入生は4人です。博士前期課程（修士課程）に48名、博士後期課程に12名の学生が在籍し、最先端の物理研究を行っています。この数年、卒業生の就職状況は大変順調です。4月から安立裕人准教授が日本原子力研究開発機構より物理学科へ着任しました。安立先生の専門分野は超伝導およびスピン輸送に関する理論研究であり、市岡教授・大成准教授の理論グループに加入します。同グループの「超伝導」分野の研究・教育が一層強力に推進されると期待されます。

今年度4月より、物理学と基礎生命科学分野の融合を目指した異分野基礎科学研究所（基礎研と略）が大学に設置されました。去年まで物理学科の教員数は、教授・准教授・助教を合わせて24名でしたが、今年4月から8名の教員が基礎研所属（物理学科兼任）となりました。一方、物理学科の学生教育と学科運営に関しては旧物理学科と基礎研所属の物理学分野の教員合同で行うことになり、物理学分野の教員数は27名（物理学科所属16名、基礎研所属11名）となりました。この物理学科の教育・研究がより充実・発展すると期待されます。



物理学科長 作田 誠

地球科学科 Department of Earth Sciences



地球科学科では、今年度は26名の新入生と4名の3年次編入・転学学生を迎えました。毎年恒例の新入生学外研修は、一泊二日の日程で大山の栢水高原や蒜山高原周辺へ出掛け、火山岩類や深成岩類、珪藻土・火山灰層などの観察

を行いました。天候にも恵まれ、新入生の皆さんは大変興味深そうに岩石や地層を観察したり、真剣な眼差しで説明に聞き入ったりしていました。

今年度初めには、気象庁気象研究所より青木輝夫教授（大気科学分野）が着任されました。ご専門は大気・雪氷放射学で、最近では、グリーンランドでの大気・雪氷の観測に基づき、積雪汚染等が北極域の環境変動に及ぼす影響の解明に精力的に取り組まれています。近年、北極域で急速に進んでいる地球温暖化とも関連した、大変重要な研究テーマです。一方で、9月初めには、地球惑星化学分野の山中寿朗准教授が東京海洋大学の教授へとご栄転されました。大変残念ではありますが、山中先生の約10年間にわたる当学科の教育・研究への多大なご貢献に謝意を表するとともに、新天地でのますますのご活躍を祈念したいと思います。なお、後任教員については検討中であり、改めてご報告させていただきます。

最後になりましたが、地球科学科の教員一同、充実した教育や優れた研究成果を目指して努力して参りますので、今後ともご支援いただけますよう、宜しく願い致します。



地球科学科長 野沢 徹




永松 慎平
平成24年 地球科学科卒業

私は平成20年4月に岡山大学理学部に入学し、博士前期課程を卒業するまでの6年間在籍していました。子供の頃から空に浮かぶ雲を眺めるのが好きで、日によって次々と変わる空模様や天気に関心を持っていました。そんな思いから、気象学の研究室のある地球科学科に入学し、4回生からは気象研究室に入りました。研究室での3年間は、スカイラジオメーターという分光放射計を使って岡山上空のPM2.5や黄砂といったエアロゾルの研究を行っていました。近年では数値モデルでのシミュレーションの研究が多く行われている中、現地観測をもとに行う研究は、気象を肌で感じながら研究ができ、非常に特別な体験となりました。

現在では、東京都池袋にある日本気象協会の環境・エネルギー事業部にて、再生可能エネルギーの発電出力予測や電力の需要予測に取り組んでいます。電力の自由化が進む中、不安定電源である再生可能エネルギーの予測は、電力の安定供給のために重要となってきています。発電量の予測は数値モデルでの計算で行いますが、精度を上げるためには現地の観測データが必要となります。学生時代に学んだ、肌で感じる気象を大切に、各地に観測設備を取り付け、予測精度向上のために現地データの解析を行っています。

化学科 Department of Chemistry



化学科および理学部附属界面実験施設の化学系教員24名のうち、11名が平成28年4月より新たに発足した異分野基礎科学研究所に異動しました。また、同時期には後藤和馬助教（構造化学分野）が准教授に昇任し、9月には唐 健准教授がグローバル・ディスカバリーに異動しました。

化学科の教員、学生は、物理化学、有機化学、無機・分析化学を基盤とした第一線の研究を行い、基礎学理を探索しながら教育・研究に活発に取り組んでいます。以下に化学科における代表的な最近の研究結果を二つ紹介します。金田 隆教授、武安伸 幸准教授の研究グループ（分析化学）は、レーザーを利用した高性能分析法の研究や、新しいナノマテリアル、紙を素材とする簡易分析素子の開発に取り組んでいます。平成27年度には、同研究室から8名の修士、学部学生が修了、卒業し、企業への就職と大学院進学を果たしました。彼らの研究成果の一部は、5報の論文として Analytical Chemistry 誌や Journal of Physical Chemistry C 誌を含む国際的な学術論文誌に公表されました。また、岡本秀毅准教授の研究グループ（反応有機化学）は、アミノ置換ナフタルイミドの蛍光が溶媒極性に応答して青色から赤色まで可視光全領域にわたって七色に変化することを見だし、溶媒応答性のメカニズムを含む蛍光挙動の全容を明らかにしました。この成果は、イギリス王立化学会の Photochemical & Photobiological Sciences 誌に発表され、その表紙を飾りました。

一方で化学科では、国際交流や英語教育にも力を注いでいます。2010年から始まった国立台湾大学理学院と岡山大学理学部の間で交互に学生が訪問するという国際ワークショップ（集中講義形式の英語による授業）は今年で7回目を迎えました。今年度は、8月22日から9月1日の間、台北で開催されました。昨年度から参加しているタイのチュラロンコン大学理学部からの学生に加えて、今年度からは広島大学や岡山大学工学部も加わり、今後さらに国際交流が活発に行われることが期待されています。

今後とも化学科に対するご支援の程、宜しくお願ひ申し上げます。最後に、同窓生の皆様の益々のご活躍を祈念いたします。



化学科長 西原康師

生物学科 Department of Biology



平成28年4月から異分野基礎科学研究所がスタートしました。生物学科からは、沈建仁教授、高橋裕一郎教授、菅倫寛助教、西村美保助教が研究所に異動し、新たに秋田総理助教が研究所に所属して生物学科を兼任することになりました。また、学科教員の異動としては、さらに、昨年度末に三枝誠准教授の定年退職がありました。この結果、現在の陣容は、教員総数21名、事務担当非常勤職員1名となりました。教員や学生の活躍振りは、学科HPや報道等でご存知の通りですが、特筆すべきこととして、富岡憲治教授が第74回山陽新聞賞（学術功労）を受賞したこと、学部3年生の増本純音さんが第5回サイエンスインカレでグッドパフォーマンス賞を受賞したことが挙げられます。今後も優れた教育・研究成果を出せるように努力して参りますので、ご支援の程、何卒宜しくお願い致します。



生物学科長 竹内 栄



私は、修士課程から博士課程の期間、時間生物学研究室に在籍し、富岡憲治教授のもとでショウジョウバエ概日リズムの制御機構とその制御に関わる神経伝達物質の働きを明らかにする研究に携わりました。学位取得後は、順天堂大学の研究員を経て、現在は米国のシンシナティ小児病院医療センターで研究員として、体温リズムの制御機構について研究しております。仮説の立て方やその検証、実験の組み立て方、そして資料の作成やプレゼンの仕方など、岡大大学院生のときに指導して頂いた知識や経験、そしてそこで得た人脈が、その後培うもの全ての土台となっていることを実感しています。



梅崎勇次郎（博士課程 2012年修了）

附属臨海実験所



実習3で用いたアカエイ(板鰐類)。解剖等により硬骨魚類との比較観察を行います。尾部には危険な毒を持った鋭い棘があり、写真のように実習前にあらかじめ切り落とされています。

附属臨海実験所で長く続けられている臨海実習1-3（生物学科対象）、公開臨海実習（学内外対象、学部制限なし）は、ご記憶の方もおられるかと思いますが、生命科学研究のための基礎的な内容をベースとし、その内容の骨格を維持しながらも、時代の変化に応じて先端的な内容も盛り込むようにしています。かつては無脊椎動物を専ら実習の対象としましたが、近年は実習生に人気の魚類も含めるようになりました（時には哺乳類も！）。また、これらに加えて最近では他大学、高等学校の実習も増え（それぞれ所内のスタッフと学生が協力しています）、特に8月初旬から9月上旬まではほとんど休みなしの大賑わいといった状況です。実習中恐ろしいのは事故と悪天候ですが、今年は台風等の影響もほとんど受けることなく野外活動が充実し、例年のない夏の暑さにも負けず無事日程を終えることができました。研究面では、文部科学省認定共同利用拠点としての共同研究がますます盛んになり、一年中外来の研究者で賑わっています。



所長 坂本竜哉

附属界面科学研究施設

Laboratory for Surface Science



気体と液体、液体と固体など異なる物質同士が接触する境界面を界面（表面）と呼びます。普段はあまり使わない言葉かもしれませんが、石鹸などの洗剤が油になじみやすい部分と水になじみやすい部分を併せ持つ分子（界面活性剤）を主成分として含むことを考えると、我々の生活にも密接に関連していることが想像できると思います。界面（表面）における原子、分子の配列は物質内部（バルク）とは異なっているため、界面に特有の性質が発現します。そのため、界面（表面）においてバルクとは異なる特性の探索が活発に行われています。附属界面科学研究施設では、人類の生活に役立つ特性を示す物質の開発を目指し、物理系と化学系の教員が

それぞれの専門分野の研究を展開してきました。界面（表面）を利用した新たなデバイス開発や超伝導（ある種の物質の電気抵抗が、その物質に固有な温度（超伝導転移温度）以下でゼロになる現象）を示す新物質開発と超伝導機構の解明は施設において行われている主要な研究課題です。



施設長 横谷尚睦